平成25年度　全国学力・学習状況調査

報告書　クロス集計

より抜粋

平成25年12月

文　部　科　学　省

国立教育政策研究所

１．指導方法と学力の関係

（１）学校の指導状況と

教科の平均正答率の関係

〇　授業などで学級やグループで話し合う活動，言語活動に重点を置いた指導計画の作成，総合的な学習の時間における探究活動を積極的に行っている学校の方が，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

さらに，小学校では，授業の冒頭で目標を児童に示す活動，授業の最後に学習したことを振り返る活動について，教科の平均正答率との関係が見られた。

また，児童生徒側の認識として，総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童について，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

さらに，小学校では，普段の授業において，はじめに授業の目標が示されている，最後に学習内容を振り返る活動を行って

いると回答した児童について，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

資料４

〇　その他の項目では，様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導，発言や活動の時間を確保した授業，調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導，書く習慣・読む習慣を付ける授業と教科の平均正答率に関係が見られた。

また，児童側の認識として，自分の考えを発表する機会が与えられている，さらに，小学校では，学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると回答した児童について，教科の平均正答率との関係が見られた。

資料４

〇　上記に挙げた指導方法については，ほとんどがＡ問題（知識），Ｂ問題（活用）ともに関係が見られた。

（２）記述式問題（Ｂ問題（活用））

の解答状況の分析

〇　Ｂ問題（活用）の記述式問題の解答状況を見ると，平成25 年度新規調査項目では，授業の冒頭で目標を児童に示す活動，授業の最後に学習したことを振り返る活動，授業などで学級やグループで話し合う活動，総合的な学習の時間における探究活動，情報通信技術を活用した協働学習や課題発見・解決型の学習指導を積極的に行った学校の方が，記述式問題の平均正答率が高い傾向が見られた。

２．学校の取組と学力の関係

〇　学校の取組として，指導と評価の計画の作成に関する教職員同士の協力，教職員の研修，保護者や地域との連携，学校評価の教育活動等の改善への反映，学校の教育活動に関する情報提供を積極的に行ったと回答した学校の方が，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

３．児童生徒の学習状況と学力の関係

○　学校質問紙では，児童生徒は自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている，相手の考えを最後まで聞くことができていると回答した学校の方が，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

４．学習意欲に関する分析

〇　普段の授業について，はじめに授業の目標が示されている（小学校ではこれに加えて「最後に学習内容を振り返る活動を行っている」），話し合う活動をよく行っている，自分の考えを発表する機会が与えられている，総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒の方が，学習意欲が高い傾向が見られた。

〇　学習意欲が高い児童生徒の方が，教科の平均正答率が高い傾向が見られた。

【参考 HPアドレス】

<http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/data/research-report/crosstab_report.pdf>



文部科学省 田村 学氏からの提供資料

文部科学省 田村学氏からの提供資料